

下ノ諏訪宿歴史探訪

明治～昭和編



発行：令和5年3月24日

下諏訪町公民館 第二区分館

「下諏訪町第二区歴史探訪・明治から昭和」冊子発刊 挨拶

下諏訪町発祥の下ノ諏訪宿の歴史探訪は令和2年度、3年度に開催し、多くの区民の皆さん、また他区からも大勢ご参加いただき、貴重かつ重要な資料や建造物を拝見し、改めて大きな宝であり、財産を再認識いたしました。

明治以降は製糸業の町、戦後は精密工業の町の中心地として大いに栄えましたが、鉄道の開通、諏訪湖の大幅な埋め立てなどにより、町の公共施設をはじめとした重要な施設の大半が鉄道の南側に移り、現在の二区は時代の変遷と共に戸数、人口が大きく減少し現在戸数は約450戸、小学生は20～30名ほどとなっており、高齢化率は極めて高く、今後の区行政運営が大変厳しくなることと予測されます。

今回は昨年11月に開催しました「下諏訪町第二区歴史探訪・明治から昭和編」時の資料に手を加え、冊子にまとめました。

明治元年から昭和64年まで約120年という長い歴史を一冊にまとめることは大変難しく、また我々の勉強不足もあり、至らぬ点も多々あると思いますが「素人集団」の二区分館の企画室委員と広報部員が資料集めから編集、印刷、冊子作りまで手作りで行いましたのでご理解いただきたいと思います。

この冊子が活気あふれ、心豊かに強い絆でつながった第二区に、また町長の標榜するウォークアブルな街になるための一助になることを願っています。

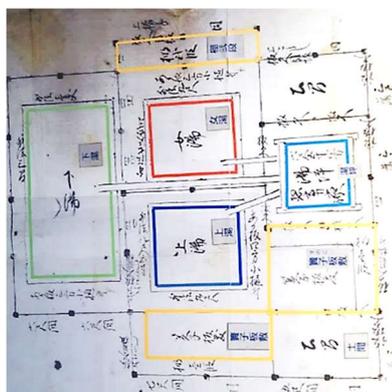
そして、この冊子に対するご意見やご指摘等ございましたら、第二区分館企画室迄お願いいたします。

下諏訪町第二区分館長 山田昌宏

下諏訪町第二区分館 企画室長 山田貞幸

二区歴史探訪 明治～昭和編

- **綿の湯** 八坂刀売命が下社の方に住まいを移す時、上社前の温泉を綿に含ませた湯玉をもってきて社前に置くと、その場所から湯が湧き出したと言われ、湯玉に因んで「綿の湯」と呼ばれ、神の湯とされた、神直属の温泉であった。



内湯は上湯、下湯に分かれ、上湯は中湯とも言われ特別の人、身分の高い人の湯で、男女別々であった。

下湯は一般庶民の湯で、修復には宿場が半額負担、残りは近在の25ヶ村がそれぞれ遠近と人口に応じて負担した。男女混浴であったが、明治20年3月5日から見湯、旦過とともに男女別湯になった。明治末期に全てが外湯として一般に開放された。



立町から見た綿の湯（明治末期）



綿の湯（昭和初期）

裏側は鍵湯であったが、外湯を二区消防屯所に改修。大正14年12月25日新築。階下は消防屯所。二階は集会所。屋上に火の見楼を乗せた。

昭和35年取り壊して、新たに鉄筋コンクリート建築にて建て直し。二つの浴槽に分かれていたが下に開口部があった。

昭和 59 年老朽化が著しくなり、取り壊され、児湯と統合し「遊泉ハウス児湯」となった。跡地は源湯とモニュメントと駐車場になっている。

- 大正 14 年綿の湯が新築された年、
八幡通りを大社通りと命名。

☆八幡坂改修渡り初め（左写真）

諏訪大社下社秋宮の銅鳥居前通り
八幡町の道路拡張改修工事が完成、
落成式を挙げる。新庁舎前(現在の
すわのね) からその渡り始めの行列。



- 現かめやホテル宴会場の場所に明治 20 年頃春日亭が出来た。その後明治 31 年に
愛衆館（寄席兼アパート）が建設された。諏訪で最
初の寄席であった。アパートは後に岡谷市今井新道
に移築された。

第二区敬老会は昭和 42 年からかめやホテルで開
催するようになった。それまでは千尋会館（以前は
料理屋松葉屋と言われていた）の二階大広間で開催していた。



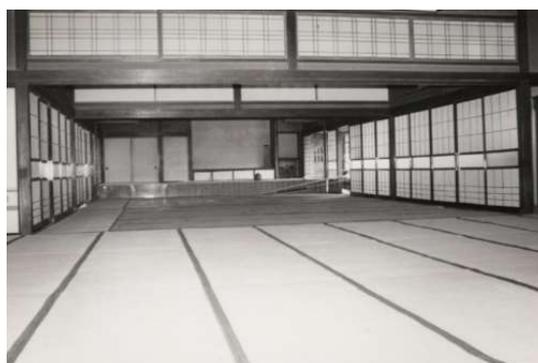
愛衆館



料理屋松葉屋



千尋会館



千尋会館 大広間

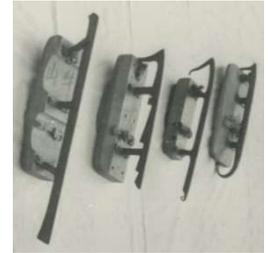
・本陣が経営していた「岩波器械製糸場」の内部、諏訪地方で撮影された写真の中で最も古いと思われる。

※同製糸場は明治 10 年創業、本陣の裏手にあった。



・秋宮リンクは明治 42 年に、旅館業者と町内有志より開設。明治 39 年に木の下飾り屋金物店で全国初の下駄スケートが発売された。

秋宮リンクはフィギュアスケート・アイスホッケー・カーリングの大会が日本で最初に行われた場所である



・郵便局 明治 5 年本陣に下諏訪郵便取扱所が設置される。この年の湯之町の戸数 276 戸。

明治 8 年に本陣に置かれた下諏訪郵便取扱所が下諏訪郵便局 (3 等) となった。

明治 36 年に下諏訪郵便局になる。高札場 (旧交番) 下の衣紋坂への道角に移転。その後、友之町上町 (大社通り) に移転し、その後、駅通りに移転した後、昭和 57 年に現在の栄町に新築移転した。

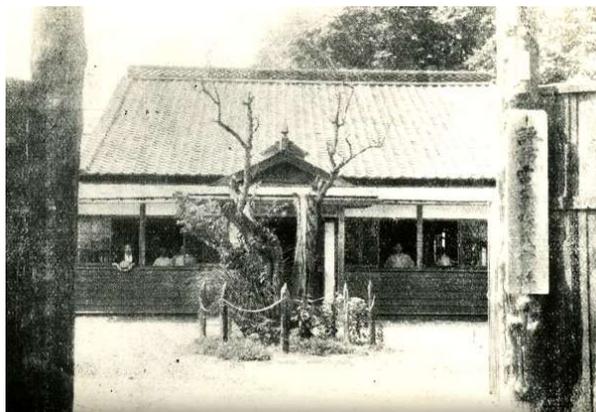


・**消防屯所**は、昭和 34 年に綿の湯を新築した際に、千尋池脇に移転され、平成 4 年第二区事務所新築に合わせ、事務所隣に下諏訪町第二分団屯所が新築された。千尋池脇の屯所跡地は、現在財産区の駐車場となっている。

・**宿場街道資料館（歴史民俗資料館）**の建物は明治初年に建造された江戸時代の商家。表は「縦繁格子」の「出格子造り」大戸入り口から「通り庭」という裏庭に通じる土間、天井は低く、2 階の床を兼ねている。間口が狭く奥行きが長い、奥に土蔵を構えた屋敷は宿場の典型的な家づくり。



・**中部電力跡** 明治 30 年から昭和 12 年まで諏訪電気株式会社の本社であった。昭和 12 年に安曇電気株式会社と合併し、信州電気株式会社となった。



諏訪電気本社（昭和初期）

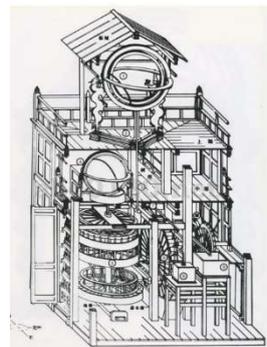


中部電力 下諏訪営業所

昭和 26 年中部電力下諏訪営業所となる。昭和 40 年 11 月鉄筋コンクリート新社屋に改造。平成 8 年諏訪湖 時の科学館儀象堂に改築。現在は「下諏訪今昔館おいでや」となっている。

・**水運儀象台** 中国北宋時代 1092 年に開封（河南省）に建設された時計台を復元したもの。

水運儀象は水で動く時計。水車を人力で回していた。一番上には「渾儀」がありいわゆる天文台である。



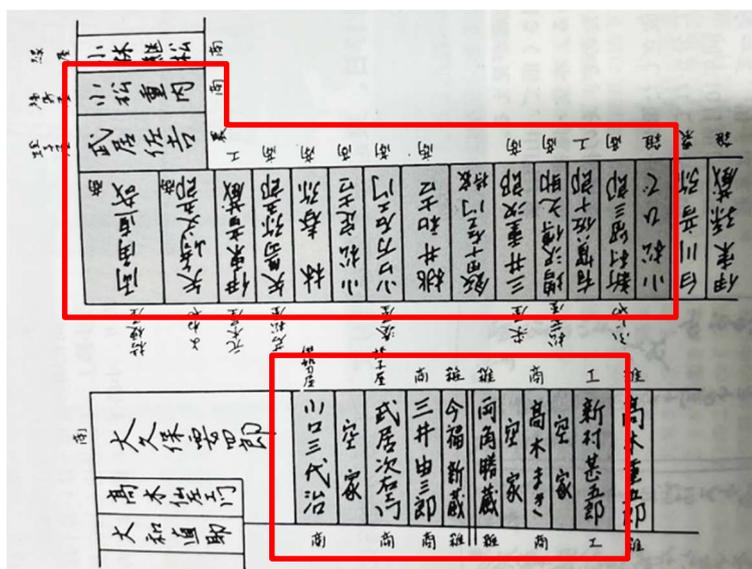
星を見るときは上の屋根を外し、筒を星に向けて観察。「北宋」の水運儀象台は北から攻めてきた「金」に壊され、30年間ほどしか機能しなかった。

開封は明時代に黄河の大洪水で水没し、土砂の下に完全消滅。水運儀象台の痕跡は全くなく、建設当時に蘇頌（そしょう）が書いた「新儀頌法要」を解読し、「時計のセイコー」の高度な技術により建設

・**立町大火** 明治7年9月15日夜、立町の松葉屋雑貨店（昭和時代は松仙堂という薬屋だった）より出火。桝売りの石油に引火した。南風に煽られ火の回りが早く、消火に当たっては「龍吐水」しかなく、また、あいにく綿の湯が改修中で温泉が使用

出来ず、大火となり20戸余りが類焼。西側は丸屋での手前の伊勢屋小口三代治宅で火が止まり、東側は木ノ下福島屋小松重内宅まで消滅。東側の一番下は新村甚五郎宅まで、西側の一番下は雑貨屋小松ひで宅（現新村宅の下の家）まで延焼した。

因みに下ノ諏訪宿では享保3年、安永元年、天明4年にも大火災があった。



立町大火による延焼範囲（赤枠内）

・**下諏訪町役場** 明治7年七カ村が合併し下諏訪村となり、事務取扱所を本陣に設置した。明治10年事務取扱所を下諏訪学校に移す。明治19年役場を学校から来迎寺に移す。明治22年に新しい**下諏訪町**が発足。立町青塚南隣に**新庁舎開庁**。大正14年7月17日八幡町に新庁舎竣工するまで36年間町政が執り行われた。八幡町（大社通り）から昭和45年12月に現在地に役場を移転。その後は長らく町公民館として使用した。平成8年に「諏訪湖オルゴール博物館 奏鳴館」として開館。現在はニデックインスツルメンツ（旧 日本



電産サンキョー)に経営が移管され「すわのね」に名称変更した。

• **明治から昭和の立町～大社通り**

儀象堂（下諏訪今昔館おいでや）前に松仙堂という薬屋があった。明治の終わり頃の絵地図には名前が載っている。

「ぎんげつ」方面への角には明治の終わりころには**青木製糸**があった。

武井医院も明治の終わりころには開業していた。

本願寺別院は昭和2年の地図には掲載されている。

昭和26年大社通りが**石ブロック**で整備された。「よいとまけ」の掛け声で路盤を固めていた。現在は石ブロックの上にアスファルトで舗装されている。

• **交番（高札場）** 高札場はお触書や罪状などを掲示した所。江戸時代は綿の湯前にあったが現在地に移転。

その跡地に諏訪警察下諏訪分署が明治23年に建築され、平成3年5月に現在の春日町に移転するまで大きな役割を果たした。交番の中には留置場もあった。



駐在所は警察官が常駐。家族で生活している人が多かった。

交番と派出所は基本的に違いはない。交番は本署が所在する都市部に設置されるのに対し、駐在所は郊外や山間部に設置され、基本的に一人で、24時間勤務であった。

• **郷倉跡** 高札場の所から衣紋坂に続く道に曲がった右側。江戸時代に高島藩が設立した穀倉。平素の管理は村名主に任されていた。下ノ諏訪の上納米はこの倉に納められた。倉は15坪くらいの広さであり下ノ諏訪宿と加宿の友之町との2倉があった。明治5年から女学校として使用された。

下ノ原明新館から東へ向かい、現入一通信社通り、御田町、湯田町を横切り高札場に出る道を「御倉小路」というのはその名残である。

- **初音座** 明治 11 年立町横内御倉小路に劇場初音座が建設された。

回り舞台があり両袖には花道が造られており、大歌舞伎などが上演され、近隣から観客が訪れ、大盛況であった。入口近くに中茶屋があり、酒・肴などが売られ、幕間にはオカモチを下げたおばあさんが「お新香はいらんかね」と売り歩いた。また明治 43 年には活動写真が興業され、入場料は一人 11 銭であった。

- **青塚館**



青塚館（大正 2 年）

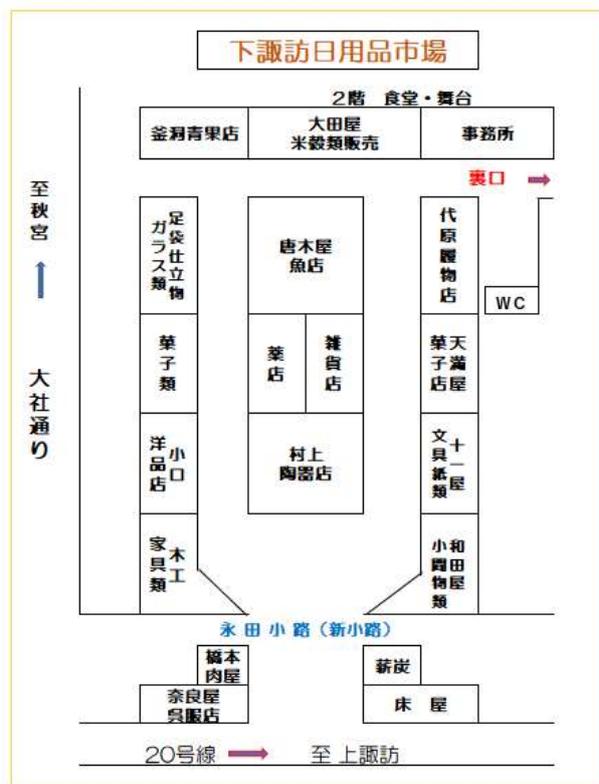


現在の青塚館

- 大正 14 年永田薬局脇に**下諏訪日用品市場**が出来た。

釜洞青果店、奈良や呉服店、床屋、ヤマウ魚や、菓子や、肉や、春日裁縫や、洋品店、文具店、薬や、小間物屋、陶器等いわゆる横の百貨店で午前 9 時から夜 9 時まで、夏場は夜 10 時まで営業していた。

2 階は食堂、舞台となっていた。



・立町温泉「洗濯場」 下ノ諏訪、湯之町に上る坂の中間の細道を入った所に「温泉洗濯場」があった。

近くの初音源湯から引湯し、4つの町内にまたがる83戸が組合を作り維持しており、年会費1,000円、貯湯タンクを設置してあり、蛇口で湯量を調節出来た。

湯之町でこのような施設はここだけであった。



・菅野温泉 明治7年田畑の中に混浴の温泉が出来た。明治19年に公衆浴場として建物が造られた。

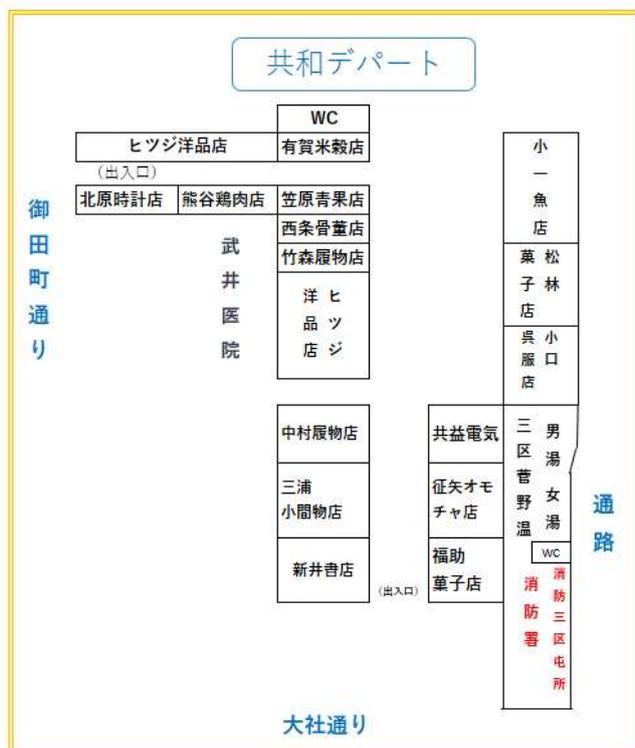


・共和デパート 昭和3年 菅野温泉脇に武井医院の敷地間口4間、奥行き6間を借りて開店。

店舗は1区画7坪くらい。貸し賃は1日約24銭。大社通り側左に荒井書店、三浦小間物屋、中村履物店、ヒツジや洋品店、竹森履物店、笠原青果店、右に福助菓子店、征矢おもちゃ店、共益電気、小口呉服店、松林菓子店、小一魚店があった。

御田町通り側からは左にヒツジや洋品店、有賀米穀店、右に北原時計店、熊谷鶏肉店があった。

昭和16年に閉鎖された。



- **八十二銀行**は、昭和6年世界的な不況の影響を受けて**第十九銀行**と**第六十三銀行**が合併して八十二銀行となった。

第十九銀行は今の八十二銀行の場所にあった。第六十三銀行は友之町にあった。

- 銀行の隣の（正木や）には終戦後昭和20年12月に米進駐軍松本駐屯部隊が来た。チョコレートやガムをもらった記憶がある。昭和21年2月には撤退した。

- 樽川パン屋の左隣は、終戦後小口司氏の経営する**司ベーカリー**だった。学校給食用のパンも扱っていた。



- **中央デパート**は選挙の時開票の途中結果を2階の窓から貼り出し、それを選対役員が書き留めて自転車で選挙事務所に持って行き、待っている応援者に報告した。

- 飯島理髪店の左隣 **日新社製糸場**→山二笠原製糸場（大正15年地図に掲載されている）→日新工業：ギター工場（火災）→パチンコ店（火災）



日新工業

現在は**下諏訪町四つ角駐車場**になっている。

- **丸七まつや洋品店**は御田町にあり、その後立町に移りマツヤ洋品店となった。その後御田町の**荒井書店**（現 **ちいとこ商店**）があったところに移転した。



丸七まつや洋品店による売り出し風景



御田劇場内で開かれた「えびす講」大売り出し

- 昭和 2 年の地図では、菱友の右隣は宮坂時計店だった。
- 昭和 2 年の地図に櫻井、竹村の名前が載っている。
- 昭和 2 年の地図で岩木さん宅の所は、旅館 岩亀（ガンキ）、衣紋坂の岩村さん宅の所は旅館 渋の湯だった。
- 昭和 2 年シロトリ写真館は御田町で開業した。（大正 12 年箕輪で開業、その後岡谷の丸山橋に移り、その後下諏訪町御田町へ）
- 大正 15 年坂本茶店のあたりは食事処の槁本屋支店、湯田仲町の角は、うどんや松月があった。矢崎生糸店の名前もある。



うどんや松月

湯田仲町防火貯水池工事
昭和 35 年 10 月



- 共益金物店の所は昭和 10 年頃は丸屋呉服店だった。

- 衣紋坂 やすだ（や寿た）料理や 1970 年代昭和 45 年くらいまで営業していた。



・**新湯** 横内（ぎん月脇道中間位）に掘削した新湯源湯を利用し、昭和3年新築。

2階建て建物で、2階は御田町の公会所として利用したが廃蝕のため、ほどなく閉鎖。昭和33年新しく建て直した。平成20年改装。



・**平和館** 昭和25年御田町通りの旧商家（坂本茶店横）を買収し改装して平和館となる。平成9年現在地に新築移転。

・**遊郭跡** 塚田町に明治13年12月に出来た。下ノ諏訪宿の飯盛り女が明治4年廃止され、その受け皿先として遊郭が出来た。塚田神社には遊郭の塚田、大增が寄進した燈籠が今でもある。南側に大增、塚田、寿、北側に新塚田、恵比寿、真澄があった。

娼妓は20名ほど居た。遊郭は料亭としての一面も持っており、音曲のため芸者も呼んだ。昭和32年4月法律で禁止され、昭和33年4月廃止。

・**矢崎（やがさき）邸** 生系の仲買所だった。



・**製糸工場跡 ①丸六製糸（現 武藤工業）** 明治18年に井上善次郎が工場として建設、創業。明治32年に片倉組が丸六製糸場として創業を開始した。

昭和18年工場転換をして諏訪航空工業となり、木製大型輸送機部品工場株式会社になり軍需工場になったが、

明治18年に井上善次郎が工場として建



昭和22年に片倉工業となって雑品製造をした。昭和31年**ヤシカ諏訪工場**となり一眼レフカメラをメインに「世界のヤシカ」となった。

昭和 47 年 ヤシカが岡谷市に移転した後は、**武藤工業**となる。

②**角や小口製糸工場**

③**昭栄製糸工場**（広瀬町）明治 42 年に破綻し昭和 6 年に山十組下諏訪製糸が昭栄製糸となった。昭和 32 年に諏訪市にあった**三協精機**が誘致された。現在の社名は**ニデックインスツルメンツ**となっている。

④**入一製糸場** 明治 34 年河西寅吉、小口松五郎、川村蓑吉、山阿由蔵の 4 人で設立。

明治 43 年河西寅吉氏が入丸組製糸場、他の人たちが入一工場を経営することとなった。入一には明治 44 年に今井栄人、河西勝太郎氏が参入した。大正 12 年に**旧ジャスコ**（後に**イオン**）の場所に**製糸工場**を建設した。

⑤**白鷗社** 青雲館北、立町三井家の製糸場。もとは諏訪大社社務所の所にあった。明治 13 年に青雲館北へ移築。

⑥**入丸組製糸会社**（明治 43 年創業）⑦**マルシメ**（現 **五味工業**）⑧**丸三倉庫**（三井家の蔵倉）⑨**丸中製糸場** ⑩**萩倉製糸** など多くの製糸工場が下諏訪にはあった。

明治 33 年には蚕糸業で長野県が全国 1 位となった。その中心が下諏訪町であった。

・**御田町通り** 明治 44 年 5 月 28 日 丸六製糸工場や入一製糸場が高額の出資をして開通（工費 5,937 円 20 銭）。桑畑と水田の中に開削された。当時は花咲町、中汐町もなかった。昭和 20 年 8 月空襲時に延焼を防ぐため家屋の強制疎開を実施した。その際に中央通り、湯田坂上、御田町通りが道幅 8m となる。衣紋坂の拡幅で家が立ち退きをさせられた家の 1 戸が藤森登氏宅で、今も横町木の下町内会に入っている。同じく二区から平沢町に移転を余儀なくされた家もあり、移転先の土地は現在も二区の飛び地となっている。

・**御田町の語源**は御作田の西南方向一帯が諏訪大社の所有する神田であり、御田町はその遺跡で、下社の直営田であった。御田とは諏訪大社の所有する神田のことである。

・**第 3 保育園**（**ぽけっと**） 昭和 31 年 9 月建設。32 年 4 月入園開始。平成 23 年に町内 3 園への統合により現在「**子育てふれあいセンター ぽけっと**」になっている。



・**富士館** 明治 43 年 12 月篠遠兼義ら 3 名により下諏訪して
として竣工。

舞台開きには尾上梅寿郎一座を招待した。大正 3 年神松館、
大正 9 年富士館となる。昭和 56 年閉館。

御田劇場御同様に無声映画上映用に楽団室や弁士に場所
があり、升席となっていた。

昭和 56 年閉館になるまで 2 階は畳敷きで、寝転んで映画
を見ることが出来た。若者のデートの場でもあった。



・昭和 34 年**羽場横手道**が出来た。

・**東明館**は、明治 40 年の来迎寺の火事の後 間
もなく焼失したので、大正 4 年に現在地、新町
上に再建された。



・**お不動様** 正式名は大岩不動。

明治 17 年に二達山信仰の修験者達によって開か
れた修験霊場。

堂内に五大明王を祀
る。役の行者の石像が
あり水垢離の滝があり、
古老の話では滝の水が
眼病に効くと言われ、



佐久や甲州からもお参りに見え、行列が出来たと言われている。

縁日には武運に強いと言われ、兵隊さんの家族で溢っていたということである。

・**真清社** 明治 23 年塚田町の両角定次郎氏が
営む真清楼（現 両角勝敏氏宅）内に天照大神
をはじめ八重事代主大神など 十八柱の神々
を奉り、明治 30 年 11 月に塚田町より遷宮し、
講員を募り真清講を開講した。



- **旦過の湯** 慈雲寺雲水僧の旦過寮のあったところ。



「あした(旦)に過ぎ、ゆうべ(夕)にやどす(宿)」から名付けられた。傷、吹き出物に効果あり。明治20年まで混浴。(綿の湯、児湯も同様)平成17年改装吉川英治の小説「宮本武蔵」の中に武蔵が旦過の湯に入浴したと記述があり、浅田次郎の「一路」の中にも参勤交代の一行が旦過の湯に入浴する一文がある。



湯田坂上からの写真



湯田坂下からの写真

- 大正15年の地図には**志まや旅館**は「**中将湯の湯**」となっている。

「中将湯」は婦人薬でお姫様のマークがついている。薬の「ツムラ」の創業者津村重舎の実家に中将姫(葛城市の曼陀羅を織ったとされる伝説上の姫)が教えた秘薬の成分があり、それをもとに入浴剤中将湯が生まれた。後にツムラより家庭で温泉気分を楽しめる入浴剤として「バスクリン」が発売された。

- **今井邦子文学館**は江戸時代の茶屋松屋。老朽化が激しく平成7年に取り壊して再建。



今井邦子は旧姓山田くにえ。山田邦彦の次女。明治23年以德島県で生まれた。代議士を務めた今井健彦(たけひこ)と結婚。今井健彦の父親は坂本龍馬暗殺の一人だったと言われている。

島木赤彦と巡り合い、短歌「明日香」を創始。戦争激化に伴い下諏訪に疎開。昭和23年7月58歳で、この家で倒れて亡くなった。

・**豊川稲荷社下諏訪分社** 昭和12年6月20日落成式。

豊川稲荷は圓福山豊川閣妙巖寺、曹洞宗寺院、神仏習合の神社として遊郭の業者等により勧請した。

ここに参詣すると美人になり、芸達者になるということから、花街の姐さんたちが日課としてお参りをした。芸者衆はお稲荷さんを主神として陶製の狐を奉納した。



例祭は10月の第2日曜日と決められており、講員全員で直会を行い、戦前は芸者のお披露目もあり大盛況であった。

・**花柳界** 昭和8年～12年ころ花街は置屋13軒、芸妓35名、半玉芸妓13名。常盤屋、新都可田、新金増、みつ本、三吉野、大和、鳶三桝、金真寿、新吉野、八重本、分住吉、鶴瓢 昼は入浴、髪結い、化粧、三味都踊りの稽古、夜はお座敷。花街は賑々しく光彩を放った。

(大正12年の二区には 料理や41軒、飲食店15軒、芸妓置屋30軒、芸妓130人遊郭8軒あったということである)

・**衣紋坂(青塚通り)** かつては獣道で大正3年に改修された(工費1,128円)

明治15年頃、「紺得」(こんとく)という紋屋が現在の3190-14番地にあり、周りの置屋の芸者衆が着物の衣紋を抜き、塚田遊郭に出入りしていたので、紋屋の主が衣紋坂と名付けたと言われている。

・**児湯** 江戸時代からあり、中湯と下湯があった。

下ノ諏訪宿の人々と特別の人のみ入浴できた。高島藩主忠虎、木喰上人などが入浴した。

子(児)宝に恵まれるということから児湯と言われた。昭和61年に取り壊され今は記念碑が建てられている。昭和62年遊泉ハウス児湯として新築。割烹旅館うらかめや跡地を買収して駐車場にした。国道142号線沿いの駐車場は旧溝口医院だった。



・旧溝口医院は江戸時代「かめや」という旅籠で、その屋号を今の「かめや」に名義貸した。

「うらかめや」の屋号は「かめや」の裏にあったから「うらかめや」という。

・**花見新道** 明治 29 年に開削された。桜は明治 32～33 年頃植えられた。

新道建設により慈雲寺の龍の口からの参道は分断された。

大正 8 年省営バス（現在の JR バス）が下諏訪駅から丸子まで運行開始。

水月園の花見の時期には、省営バスの臨時便が出るほどの賑わいであった。

芸者衆の花見は見物客でいっぱいの一大会事だった。



・**来迎寺** 引接山衆聖院来迎寺というのが正式名で、浄土宗総本山知恩院派の寺院。開祖は諏訪左衛門尉で、下社大祝金刺家の分家である。天文 10 年（1541 年）願誉栄海上人により開山。芝の増上寺二十一世住職位産和尚は来迎寺で会得。明治 5 年 8 月湯の町に初めて**第十六小学**

校が**来迎寺本堂**に開設。明治 12 年諏訪新校開業。学校はその後岩波製糸の事務所に移った。明治 19 年に学校から**役場**が**来迎寺**に移った。明治 22 年立町青塚下に役場が新築されるまで役場として使われた。明治 40 年 10 月本堂、庫裏焼失。東明館も類焼。明治 41 年塩尻洗馬の廃寺を移築し、庫裏とし、昭和 11 年本堂を再建。昭和 32 年に鐘楼、梵鐘を作った。東明館は大正 4 年に再建された。

来迎寺再建にあたり本堂はじめ敷地の拡大に伴い裏の墓地（下諏訪村共有地）が、移転させられた。

・**区費** 昭和 13 年 1 戸 50 銭 昭和 21 年 1 戸 1 円 昭和 29 年 1 戸 250 円 昭和 51 年 1 戸 1,200 円 令和 5 年 現在は 1 戸 4,800 円

・昭和時代の横町木ノ下

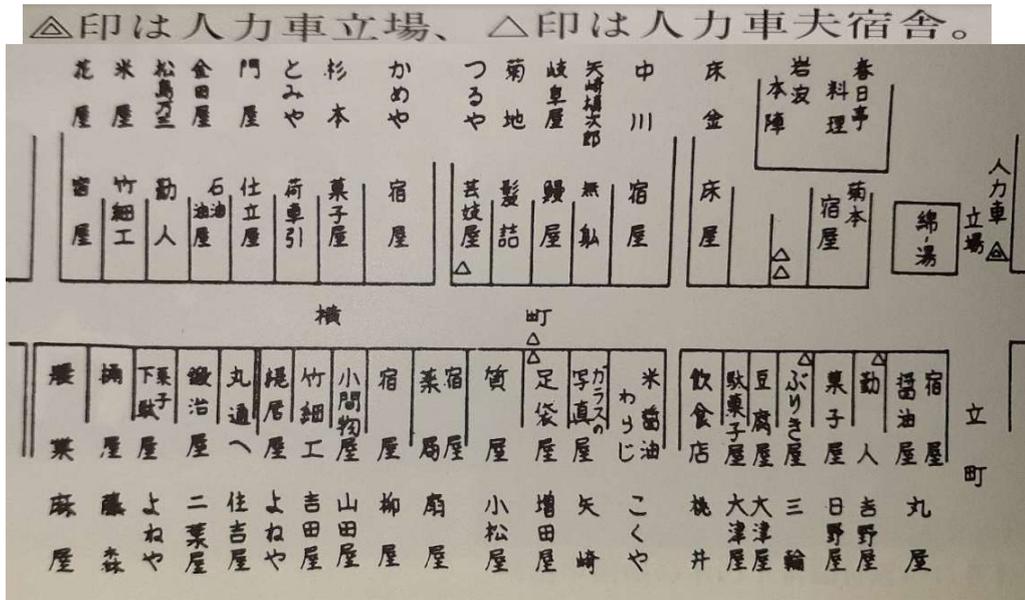
北側 植松宅、新鶴、牛山商店（宮大工）南側 福島屋下駄店、香具師

・昭和時代の横町

北側綿の湯、菊本、本陣、床屋、中川、日章堂判子や、溝口医院（雑貨屋・下宿屋）白川雑貨屋、花屋（見番）

南側 まるや旅館、古田菓子店、中込ブリキ屋、つたや洋服店仕立店、二葉屋酒店 米穀店、

明治 26 年頃の横町復元図



新鶴



菊本から来迎寺方面へ



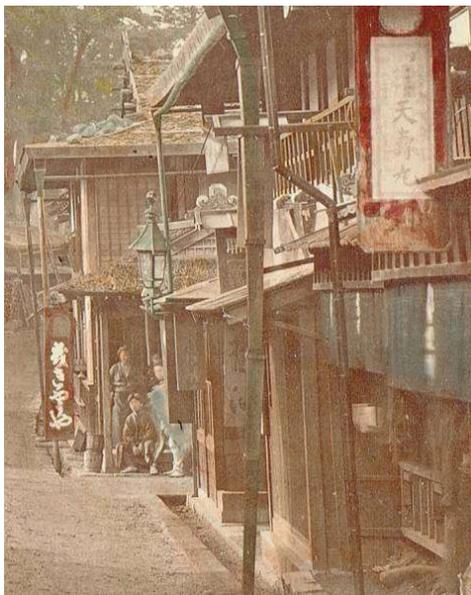
中川宿屋



新鶴方面へ



新鶴方面へ

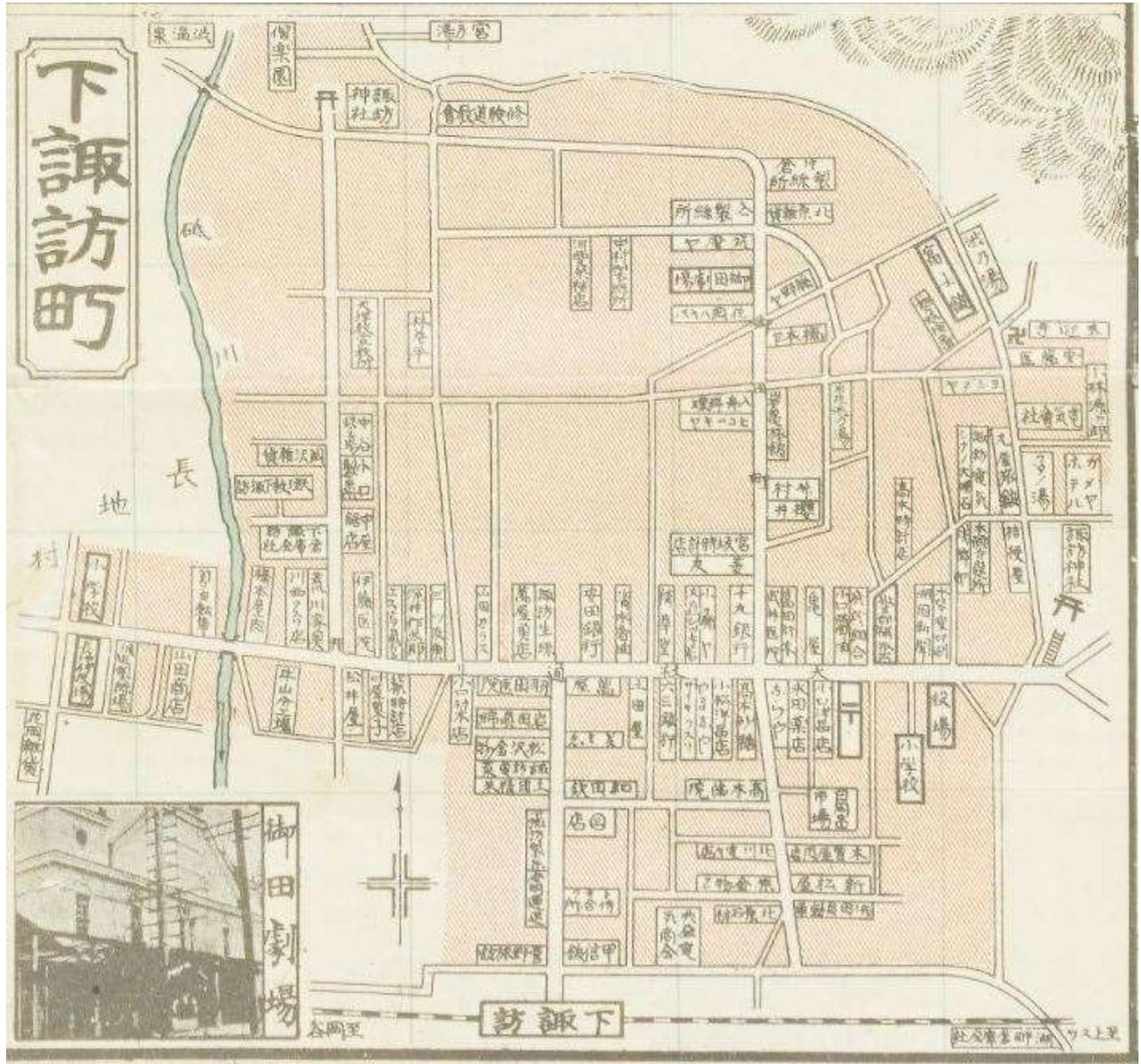


ききょう屋



かめや3階から見た風景

昭和3年商業別詳細図



*当冊子には、「下諏訪デジタルアルバム」及び多くの皆さまよりご提供いただいた、貴重な写真を使用させていただきました。この場をお借りして関係される皆さまに感謝申し上げます。



「下諏訪町第二区歴史探訪・明治から昭和」発行 第二区分館 企画室
順不同

分館長	山田 昌宏	企画室長	山田 貞幸
副分館長	小口 芳孝	主事	両角 京子
広報部長	高木 範明	副部長	栗林 洋斗
文化部長	高木 俊雄	副部長	宮坂 みどり
研修部長	青木 由親	副部長	松本 恵美子
体レク部長	高木 克彦	副部長	山邊 奈美

発行責任者 山田 昌宏 編集責任者 山田 貞幸
編集者 小口 芳孝 高木 範明 山田 道宏